



“Workshop on High Resolution Atmospheric Simulations and Cooperative Output Data Analysis” 開催のお知らせ

地球シミュレータの活用などもあり、大気・海洋の高解像度シミュレーションが活発に行われるようになってきました。それに向けてモデル開発も行われ、シミュレーション結果がどの程度現実的なのかの評価も進んでいます。本ワークショップでは、名称は“*Atmospheric*”となっていますが、大気だけではなく、海洋、また、結合モデルによる高解像度シミュレーションによる最先端の研究成果を持ち寄り、建設的かつ批判的な議論を通して今後の方針を探ります。

(本事業は独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) の助成事業です。)

期 日：2005年9月21日 (水) ～22日 (木)

場 所：独立行政法人海洋研究開発機構横浜研究所

使用言語：英語

発 表：原則的に招待のみですが、ご相談に応じます。

参加費：無料 (懇親会費は別途徴収致します。)

参加申込方法等詳細：

<http://www.es.jamstec.go.jp/esc/research/AtmOcn/hires2005/>

開催責任者：佐藤哲也 (海洋研究開発機構)

世話人：高橋桂子 (海洋研究開発機構)

田中幸夫 (海洋研究開発機構)

坪木和久 (名古屋大学)

大淵 濟 (海洋研究開発機構)

連絡先：ohfuchi@jamstec.go.jp (大淵)

東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター利用研究集会 「台風のライフサイクル：発生から温低化まで」のご案内

研究代表者：海洋研究開発機構 大淵 濟

台風はとくに我が国にとってもっとも顕著な気象現象の一つです。2004年には観測史上最多の日本上陸数を記録し、甚大な被害となりました。また、地球温暖化が進むと台風の振る舞いはどうなるのかなど、台風研究の領域も広がってきています。若手研究者だけではなく、台風を専門としてこなかった研究者の参入も活発です。そこで、さらなる研究の活性化のために、専門家だけではなく新規参入者も交え、基礎的理解を深めて研究コミュニティのレベルの底上げをする機会を設けたいと思っております。

本研究集会では、まず、台風の1) 発生過程、2) 発達過程、3) 進路の決定要因、4) 温帯低気圧化と減衰過程、などのトピックについて専門家にレビュー的な講演をして頂く予定です。台風のライフサイクルについて、現在どのような知見があり、どのような未

解決の問題が残っているのかを整理し、重要課題を明確化することを目指します。

一般の講演も、基礎から応用、また、観測、理論、シミュレーション、さらに初心者レベルから最先端研究まで広く募集致します。都会の喧噪を離れてごっくばらんに議論をしたいと思えます。

期 日：2005年9月29日 (木) ～30日 (金)

場 所：東京大学海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター (岩手県上閉伊郡大槌町)

申込締切：2005年7月31日 (日)

参加申込方法等詳細：

<http://www.es.jamstec.go.jp/esc/research/AtmOcn/ohsuchi2005/>

連絡先：大淵 濟 (ohfuchi@jamstec.go.jp)